

Junior Red Cross

Information 2026

No.
174



明日から実践できる！

学校教育に役立つ 青少年赤十字



青少年赤十字への加盟登録のご希望は
全国の都道府県支部にご連絡ください。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
公式アンバサダー

上白石 萌音さん

TVCMをはじめ、ポスターやリーフレット、キャンペーン特設サイト等で日本赤十字社の活動を広く伝える、日赤アンバサダーの上白石萌音さんからメッセージをいただきました。



立ち止まらず動き続ける
青少年赤十字の皆さんを
応援しています!

Q1

赤十字にアンバサダーとして携わっていただく中で、特に印象に残っている、共感された赤十字の考えや活動は何ですか？

日本赤十字社の職員の方とお話をした時、「私たちにできることはなんですか」と伺ったら、「興味を持って、何かしたいと思ってくれることがまず何より嬉しい」とおっしゃいました。全ての出発点が、自分から「知りたい」「動きたい」と思うことなんだと改めて気付かされました。現場で活躍されている方のその一言が今も忘れられません。

Q2

さまざまな赤十字の活動に若いうちから関わることはどのような影響があると思いますか？

色々な人がいて、色々な暮らしがあることを知り、それを学校での勉強と結びつけて考えられるというのが素晴らしいことだと思います。自分から動いて得た知識や経験は、大人になってもしっかりと残ります。そして**学生のうちに身に付けた考え方は一生の宝物**だと感じます。

Q3

学生時代に先生から教わったことで印象に残っていることはありますか。また、それは今のご自身のお仕事やライフスタイルにどのように影響していますか。

相手の気持ちを想像すること。なるべく色々な角度から考えること。自分の言葉で話したり書いたりすること。質問したり間違えたりする勇気を持つこと。どれも学校で繰り返し言われることですが、**社会に出るとなかなかじっくり教えてもらえない、とても大切なこと**だったのだと気がきました。

Q4

学生のうちに経験してよかったと思うこと、学生のうちに経験しておけばよかったと思うことを教えてください。

私は中学一年生からこのお仕事をしていますが、学校行事や受験は全部しっかり経験できました。**学生のうちは、学生らしいことを思い切りしておくのが何よりも尊いこと**だと思います。勉強も、遊びも、人間関係も味わい尽くしてほしいです。その中に青少年赤十字活動があるというのはやはり素晴らしいことだと、皆さんを尊敬します。

Q5

青少年赤十字活動に携わる学生の皆さんにこれからどんな経験をしてほしいと思いますか。

暮らし方や考え方の違う人たちと沢山話をしてほしいと思います。**ひとつの物事を見るときに、それを映すカメラを自分の中に何台も持っていること**はとても大切なことです。さまざまな角度から考えられる人でありたいと私もいつも心がけています。その意識を身に付けられるチャンスを目一杯使って、ぜひ優しさの連鎖を生んでください。

Q6

青少年赤十字の指導者である学校の先生方にエールをお願いします。

私の両親は教師なのですが、幼い頃から本当に色々な場所に連れていってくれました。**その時に目にしたもの、教えてくれたこと、一緒に考えたこと**は今もはっきりと覚えていますし、大人になるほど感謝が深まっています。本当に大変なお仕事だと存じますが、子どもたちの心に一生残る時間をつくってくださるのが先生方だと思っています。どうぞよろしくお願いいたします!

Profile

上白石 萌音(かみしらいし もね)
映画『舞妓はレディ』『君の名は。』、ドラマ『カムカムエヴリバディ』、舞台『千と千尋の神隠し』などに出演。歌手やナレーター、執筆業などでも幅広く活動。2024年には主演映画『夜明けのすべて』が公開され大きな話題に。

- 01 Special Message 巻頭インタビュー
日本赤十字社公式アンバサダー 上白石萌音さん
- 04 ゼロから学ぶ青少年赤十字活動
- 05 青少年赤十字を採用している学校の取り組みを紹介
日々の学校生活に青少年赤十字をとり入れる!
- 06 JRC賞で表彰した活動と受賞した喜びの声を紹介
高校生ボランティア・アワード2025
- 07 各種研修や地域との連携
全国事例紹介
- 10 国や言語を越えてつながった日々
令和7年度青少年赤十字国際交流事業報告
- 11 子どもの主体性を高める夏の研修
リーダーシップ・トレーニング・センター in 和歌山県
- 13 海外活動報告!
高校生青少年赤十字メンバー対談
オーストリア・ベトナム・モンゴルでの夏休みの学び
- 15 今年度実施予定の各種研修・事業のご案内
- 17 学校で活用できる!
青少年赤十字教材・資料
- 18 多くの感動を残した体感型パビリオン
大阪・関西万博「国際赤十字・赤新月運動館」
実施報告



1922年から100年以上
学校教育の場で展開される青少年赤十字。
本号では主体的な子どもたちを育成する
その活動や手法、魅力をお伝えします。



Junior Red Cross
Information 2026
2026.4.1 No.174
青少年赤十字指導情報



ゼロから学ぶ青少年赤十字活動

青少年赤十字は 「気づき・考え・実行する」ことができる子どもを育てます。



赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。そのうちの一社である日本赤十字社が展開する青少年赤十字（Junior Red Cross：通称JRC）は、学校教育の場に組織され、学校・幼稚園の先生や保育所の保育士等が指導者となって、さまざまな活動の実践を通して全国で思いやりの心を持った子どもたちを育てています。

また、同じ理想を掲げ、実践している国内の学校やメンバー間はもちろん、海外の姉妹社の青少年赤十字メンバー（Red Cross Youth：通称RCY）同士の人、情報、物（国際親善アルバムなど）の交流も盛んに行われています。

加盟校数：**1万4,304校** メンバー数：**334万5,460人**

※2025年3月31日現在

はじまり

第一次世界大戦時、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、赤十字を通じて手紙や包帯、被服、慰問品などを届けました。これがきっかけとなり、青少年赤十字が誕生しました。

目的

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活での実践活動を通じて児童・生徒が生命と健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としています。

実践目標と態度目標

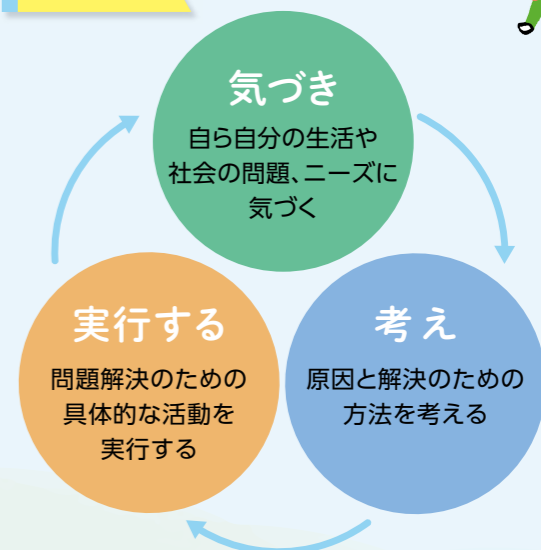


青少年赤十字では、その目的を達成するために具体的な目標を提示しています。それが「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という3つの実践目標です。また、児童・生徒が自主的で自律した生活態度を養うために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。

実践目標

- 健康・安全**
生命と健康を大切にする
- 奉仕**
人間として社会のため、人のために
尽くす責任を自覚し、実行する
- 国際理解・親善**
広く世界の青少年を知り、
仲良く助け合う精神を養う

態度目標



日々の学校生活に 青少年赤十字 をとりいれる!

「子どもたちの良いところをたくさんみつきたい」「自主性を育てたい」、青少年赤十字を学校教育活動にとりいれると、皆さんのその思いが叶うかもしれません。青少年赤十字を活用しているこども園や学校でどんな取り組みが行われているかのぞいてみましょう!

子どもが主役の防災教育! 赤十字ボランティアによる豊かな学び



佐賀県 幼保連携型認定こども園 学校法人川副学園 博愛の里こども園

講師に赤十字防災ボランティアの方を招き、青少年赤十字の教材「ぼうさいまちがいがし きけんはっけん!」を用いた防災教育を実施しています。子どもたちは地震発生時の身の回りに潜む危険に気づき、自分自身と大切な人を守る方法を学びました。園では月に一度、避難訓練やオリジナルの資料で学習していますが、日本赤十字社の防災セミナーを使うことで、日常の中の危険な場所に園児が主体的に「気づき」、「自分で考え」、保育者や友だちと対話しながら「実行できる」豊かな学びになったと感じています。



学級運営に生かせるV・S活動! 周りのためにできることを気づき・考え・実行する



栃木県 真岡市立西田井小学校

1949年から、全校生で青少年赤十字活動に取り組んでいます。授業や学級運営、異学年交流につながる「個人」「学級」「縦割り」という3つの単位でV・S (ボランティア・サービス)*1活動を実施。「個人」では、常日頃から人、クラス、学校のために行動を考えてもらいます。「学級」では、学級活動の時間で学校のために何ができるかクラスごとに話し合います。あるクラスは皆が気持ちよく流しを流すよう掃除しました。「縦割り」では、1年生と6年生が協力して校庭を使いやすくするため落ち葉掃きを実施しました。毎月15日前後には「よい子の日」を設け、委員会の児童が中心となり、校内全体で募金や使用済み切手の回収等を行っています。個人、学級、学校と視点を変えて、友だちと協力して自分が周りに対してできることを考え・実践する活動を通じ、子どもたちの自主性・自発性が育っています。

*1 ボランティア・サービス…青少年赤十字におけるボランティア・サービスは、児童・生徒の自主性・自発性を育てる教育的ねらいから相手の気持ちを理解し、自分の能力のできる限り貢献しようとする自発的な日常生活における実践活動を指します。



*P5の内容は2025年3月31日時点のものです。

高校生ボランティア・アワード 2025

みとや
島根県立三刀屋高等学校 JRC部が
JRC賞を受賞!

開催概要

高校生ボランティア・アワード2025
～君の志を応援します～

会期: 2025年8月23日(土)、24日(日)
会場: 新宿住友ビル三角広場
主催: 公益財団法人 風に立つライオン基金

2016年にスタートした「高校生ボランティア・アワード」が、2025年8月に東京で開催され、10回目を迎えました。特別応援として携わる日本赤十字社がJRC賞として表彰した活動と、受賞した喜びの声を紹介します。

伝統芸能を生かした防災の取り組みが評価

日々ボランティア活動を実践する高校生たちが、お互いの活動や問題意識を共有することにより、さまざまな問題解決につなげていくことを目的に公益財団法人風に立つライオン基金が開催している「高校生ボランティア・アワード」。全国から198団体がエントリーし、その中から過去最多の124団体が東京に集結しました。

本アワードの特別応援を行う日本赤十字社は、島根県立三刀屋高等学校JRC部の活動に対し「JRC賞」を授与。同校では、地元の伝統芸能である神楽で防災イベントに人々を引き込み、地域で親しまれてきた「ヤマタノオロチ伝説」を題材にしたオリジナル紙芝居で、河川氾濫の恐ろしさ、



水害からの避難や防災の知恵を伝えるとともに、「神楽de防災体験」を企画しています。低体温症などを防ぐためのタオルケットを使ったガウンや避難所で使える新聞紙スリッパでガレキ歩き体験など、実際に体験してもらうことを大切に、子どもから高齢者まで行動できる人の輪を広げることを目指しています。

この活動のきっかけは、2021年の豪雨災害の数年後、地域の防災意識が薄れつつある現状を、住民の言動やアンケートで把握したことにあります。どうすれば多くの人が危機感を持って防災に取り組んでくれるかを考えた結果、この「体験」企画へとつながりました。

自ら地域課題に「気づき・考え・実行する」という姿勢は、青少年赤十字の理念を体現するものであり、地域の防災力を高める取り組みとして高く評価されました。



メンバーの 声



小林 珂穂さん(2年)

アンケート調査を通して防災意識を高めることの難しさを実感しました。そして、解決するために、自分たちの身近なところからアイデアを出していったことで、発信力のある活動になったと思います。



布野 泰成さん(2年)

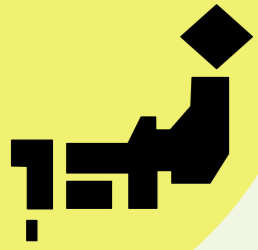
神楽は地元で大切にされてきた伝統芸能で、神楽があれば人が集まる。その神楽と地域のつながりを、防災を考えるきっかけにしたいという思いが形になり、多くの人に届けることができよかったです。

指導教諭の 声



片岡 初美先生

いつも、生徒たちは自分たちで課題を見つけ、解決するために必要なことを考え、色んなアイデアを実践しています。まさに「気づき・考え・実行する」日赤の理念に通じる姿勢を誇らしく思っています。



全国事例紹介

教師としてスキルアップしたい！

指導者に向けた養成講習会を開催

青少年赤十字の活動を指導する学校の先生に向けた養成講習会を全国で実施しています。2024年度は29の都道府県でさまざまな研修会を実施し、2,000名以上の先生が参加しました。



全国の先生と交流 フィードバックをもらい、学校での活動案作成

研修会は各地域だけでなく、全国的な規模で開催されるものもあります。その一つであるリーダーシップ・トレーニング・センター（P11-12参照、以下トレセン）指導者養成講習会（P15参照）には北は北海道から南は沖縄まで、校種も経験も違う先生が参加しており、トレセンの運営方法だけでなく、各学校のさまざまな事例を

学ぶことができます。プログラム終了後に自らが学校や地域で行う実践的な計画を立てる時間（通称ワークショップ）もあり、各自が5W1Hを意識した計画を立てた後、全国の先生からフィードバックをもらいながらブラッシュアップすることでさらに計画の実効性を高めていきます。



時間を忘れるほど熱中！ 講習で増えた仲間たちと、感じた成長

2024年度と同講習会に参加した鹿児島県の田之上先生は、人と交流すること、新しいことをするのが大好きな先生。これまでも指導者としてさまざまな研修、異年齢・異業種交流、海外との交流等に積極的に参加し、地元で青少年赤十字活動を日々推進していました。地元のトレセンでもスタッフを経験し、県の指導者講習会にも参加をしたことで、もっと青少年赤十字の「気づき・考え・実行する」の態度目標を学校で実践したいと思ったことから、この講習会に迷うことなく参加を決められました。

田之上先生の声

講習会で企画したワークショップでは「Happyちょボラ活動（=ちょっとしたボランティアをすること）」を考案し、講習会終了後に早速計画を実行しました。この活動では子どもたちと募金活動や学校内で研修会、コンタクトレンズやペットボトルのキャップの回収活動など、7つの活動を実践しています。

青少年赤十字委員や気づいた生徒が、休み時間に上を向いている水道の蛇口を1つ1つ下に下ろしている姿を思い出して考えたのですが、ほんのちょっとしたボランティアで周りの人を幸せにできる活動は素晴らしいと思いました。また、その活動を通して、生徒の変容を見ることも喜びであり楽しみです。今後もさまざまな青少年赤十字の活動に生徒を参加させたり、「学校トレセン」にもチャレンジしたりして、生徒たちの「気づき・考え・実行する」自主性を引き出し、生徒の成長の糧になると思われることには、積極的に汗をかきたいです！



こんなことできるかな？ あんなことがしたい！ という皆さんのニーズにお応えする、青少年赤十字の全国の活動を見てみましょう！

子どもたちが自主的に行う活動を知りたい！

FROM 宮崎県

さまざまな分野で担当生徒が活躍する 高鍋高等学校

青少年赤十字の活動は「これをしなければいけない」と決まったものがあるのではなく、趣旨に共感した、各学校で自由に赤十字の教材やリソースを活用した子どもたちが、自主的に取り組むことを促しているのも特徴です。ここでは、子どもたちが積極的にさまざまな活動に取り組んでいる、宮崎県立高鍋高等学校の活動をご紹介します。

高鍋高等学校では日々、担当生徒を決めて献血、防災、救護、国際理解の4つの活動をしています。2年生が主体となりつつ、1年生とともに自分たちで担当や活動方針を話し合いで決定し、自主的な運営方式をとっていることが生徒たちの主体性を育む要素となっています。



校内のみならず町内の団体とも連携

校内では通常の部活動に加え、月に1回程度支部職員による講話や、救急法（けがの手当て、搬送等）の講習を行っています。学んだ救急法を生かして体育祭でも活動するほか、町内の社会福祉協議会やライオンズクラブ他の団体と連携した活動も実施。町内で献血が行われる際は街頭での献血の声掛けや、広報車に同乗して広報活動を行っています。活動日には、生徒たちが自主的に旗やバッジなどの準備を行い、参加メンバーで手分けして活動を進めています。自分たちで決めたことを自発的に行動し協力する姿勢が、長年の活動の継続につながっています。



顧問の先生の声

生徒の自主性を育むため、私たち顧問は、参加できる時に活動できる人で行うことを心掛けています。また、生徒たちの話を聞いたり、声を掛けたりして、できる限り楽しい気持ちで参加できるように支援しています。さらに、前顧問の渡辺幸一先生や日本赤十字社の方々が、「人々が協力し人道的な優しさや思いやりをもって、他者や地域に貢献する」という赤十字の考え方の素晴らしさを生徒たちに直接伝えてくださっていることも、生徒たちの活動への意識向上に大きく貢献しています。2022年に100周年を迎えた青少年赤十字にかかわり、赤十字の尊い人命救助の灯をともし続けたいです。そして、この活動を通じて、生徒たちが自主性と責任感を身に付け、社会に貢献する人材として成長していくことを願っています。



体験型イベントで大規模災害に備える！



家族の命を守るための防災・減災イベントを開催

イオンモール高知において、日本赤十字社高知県支部が令和7年度赤十字防災・減災イベント「家族の命を守り、避難生活を考える」を開催しました。本イベントは、家族みんなで楽しみながら学べる体験型イベントとなっており、南海トラフ地震などの大規模災害に備え、自分や家族の命を守るための知識や行動を身に付けることを目的としています。

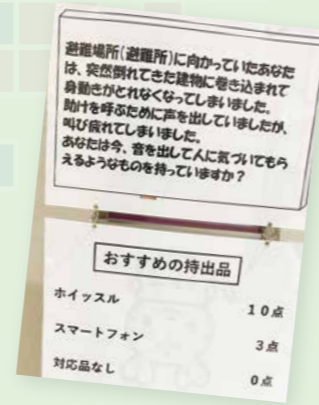
青少年赤十字メンバーや赤十字奉仕団員、地元企業の皆さんの協力のもと、AEDの使い方や避難生活でのリラクゼーションを学べるブースなどを運営し、当日は約300名が来場。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、防災・減災について考える有意義な一日となりました。



青少年赤十字メンバーがブースを企画・運営

会場内には、青少年赤十字メンバーが中心となって企画・運営するブースを設置。来場者に防災リュックの中身を考えてもらい、自分の考えた防災リュックで実際に災害が起きたときに対応することができるのか、ゲーム形式で学んでもらいました。メンバーが来場者に声をかけながら説明を行い、災害時の備えや行動について一緒に考える場面も見られました。

日頃の活動の成果を生かし、防災・減災の大切さを知ってもらう貴重な機会となりました。



メンバーの声

青少年赤十字としての日頃の活動で防災の重要性を感じていたことから、「もっと多くの人に防災について知ってもらいたい」と考え、今回のブースを企画・運営しました。特に南海トラフ地震が予想される高知県では、避難時に必要不可欠な防災リュックの大切さに気づいてもらい、「自分の身は自分で守る」という意識を持ってもらうことが必要だと感じました。体験型ゲームを取り入れることで、子どもから大人まで楽しめるよう工夫しました。参加者からは「自宅の防災リュックを見直してみます」といった反応をもらい、防災リュックの大切さが伝わったことを実感することができて嬉しかったです。



私たちのおすすめ避難グッズ



～小さな一歩が、世界を動かす～

「令和7年度青少年赤十字国際交流事業」 青少年赤十字国際交流集会



JRC/RCY International Meeting, "Tokyo 2025"

国内外の青少年赤十字・赤新月メンバーが一堂に会し「国際理解・親善」を深めることを目的に「令和7年度青少年赤十字国際交流事業」を実施しました。ここでは、2025年10月30日～11月3日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた集会の様子をご紹介します。

国や言語を越えてつながった5日間

今回はメインテーマを「Think globally, Act locally. (地球規模で考え、自分の地域から行動しよう)」、サブテーマを「人道危機」「気候変動」として開催しました。本集会は、世界で起きている課題に気づき、それらを“自分ごと”として捉え、次の行動につなげる力を育むことを、目標としています。参加者は日本各地および18の国と地域から集まった73人。言語や文化の異なる仲間がお互いの活動紹介やディスカッションなど、多彩なプログラムを通じて学び合いました。また、4日目には文化交流として各国のメンバーが歌やダンスを披露し、大いに盛り上がりました。



参加者からは「異なる環境や価値観を理解し、共通点を見つけて歩み寄ることが大切だと感じた」「人道危機や気候変動の影響を受けている国に暮らす参加者の話を聞き、世界の問題が身近に感じられた」との感想が寄せられ、国や言語が違っていても「苦しんでいる人の助けになりたい」という同じ思いでつながることができた、貴重な5日間となりました。

おもなプログラム紹介

活動紹介

ポスターを用いて各国・地域の青少年赤十字活動を紹介。共通の目的でつながっていることを学ぶとともに、自分たちの活動に生かす学びを得ました。



三井『サス学』アカデミー

三井グループ11社の気候変動に対する取り組みを学び、課題解決に向けて自分たちができる具体的な活動について熱心に議論。社会課題をジブンゴトと捉え、サステナブルな未来を作るための知恵を学びました。



フィールドワーク

施設内に設置されたチェックポイントをグループで巡り、各地点で出題される課題に挑戦。仲間と協力しながら取り組む中で、協調性やチームワークを育みました。



グループディスカッション・発表

サブテーマごとに講義を受けた後、議論を重ねました。他者の視点を踏まえながら、自国・地域で実践できる活動を考え、計画を発表しました。



参加者の



海外メンバー

日本メンバー

赤十字運動の力の大きさに感動

この期間で文化の違いや人の優しさなど、本当に多くのことを経験しました。そして、「一つに結束した赤十字運動」の力の大きさを強く感じ、人道的活動への理解をより深めることができました。ここで学んだことを生かし、帰国後は子どもたちの気候変動への意識を高める活動に取り組んでいきたいと思っています。

人との絆を深め歩み続けたい

世界の平和のために私たちにできることは、人と人との絆を深めることだとこのプログラムを通して実感しました。異なる国・地域の人々と出会い、「違い」に気づき、それを恐れず行動することで、新たな学びや可能性が広がりました。また、「無関心の中にこそ新たな関心がある」ことを知り、自分の興味を社会貢献へとつなげる決意を固めました。この貴重な経験を胸に、世界の平和と人々のつながりのために歩み続けます。



本事業は、三井グループ350周年記念事業の支援を受けて実施しました。



リーダーシップ・トレーニング・センター in 和歌山県

基礎データ

期間: 2024年8月8日(木)～8月9日(金)
場所: 和歌山県紀北青少年の家
対象: 県内の小学校・中学校・高等学校の
 青少年赤十字メンバー
参加者数: 103名
 (小学校5,6年生85名、中学生6名、高校生12名)

毎年夏に全国で開催されるリーダーシップ・トレーニング・センター(通称:トレセン)では、集団生活と赤十字に関する知識・技術を集中的に学ぶ経験から、たくさんの子どもたちが大きな成長を遂げています。



青少年赤十字では、メンバー全員が進んで役割を持ち、ある時はリーダーに、またある時は協力者の立場を取ることができるようになるような「リーダーシップの取り方」を目指しています。トレセンはメンバーの自主性に任せ、合図や指示はしない・必要な情報の伝達は掲示板で行うV・S(ボランティア・サービス P5参照)活動や

先見に積極的に取り組む、といった方針のもと、全国で実施しています。都道府県ごとに運営の工夫や特徴があるのも魅力の一つです。
 今回は小学校・中学校・高校すべての校種が参加し、運営に学校の先生だけでなく、大学生ボランティアも活躍している和歌山県の例を紹介します。

Homeroom

活動の基盤は小学校・中学校・高校の校種に関係なく編成されるホームルームです。
 小学生は上級生の動きを真似し、中・高校生は自然と小学生のフォローをし、それぞれが役割を担うことで、とても良いチームワークが生まれていました。

2日目のメインプログラムはフィールドワークです。メンバーは、トレセンで学んだ知識と技術、培ってきたチームワークを生かしながら関所を回ります。関所ごとに出题される防災や赤十字に関するクイズに回答しながら力を合わせてゴールを目指しました。



Fieldwork

Event

掃除や食事をはじめ、朝のつどい、キャンプファイヤーなどのイベントも子どもたちによるV・S活動によって運営されます。24時間、生活のすべてが学びの場です。



トレセンタイムテーブル

Timetable

DAY	11:00	12:00	13:00	14:00	15:30	16:30	19:30	20:50	22:00
DAY 1	開会式	昼食 リーダー会議		車いす体験 高齢者疑似体験	ホームルーム		夜のつどい キャンプファイヤー		
		オリエンテーションと アイスブレイキング	【講義】 赤十字について			炊出し体験 バーベキュー		リーダー会議	
DAY 2	起床 掃除	朝のつどい 部屋点検 朝食	7:30	8:30	9:30	12:00	13:00	13:20	14:10
				災害に備えよう! ～避難所体験	フィールドワーク	昼食			閉会式・退所式・記念撮影
									15:00
									フィールドワーク 講評 2日間の振り返り

トレセンは主に加盟校の先生やボランティアの方々の協力で運営しています

先生の声



子どもたちにとって、知らない環境・人たちの中で意見を言えた成功体験や、1歩を踏み出せた事実は大きな自信になります。短い期間でも子ども自身が変わっていく姿を見られるのがトレセンの魅力です。
 若い先生にとっても、トレセンは学級経営に役立てられる魅力的な場だと思います。自分の受け持つクラス以外のさまざまな学校の子どもや先生と出会う、他の先生の子どもたちへの関わり方や指導方法、動きや姿勢を学べるからです。短い期間だからこそ、ちょっと勉強のつもりでぜひ参加して欲しいです。(加盟校の先生/今回のトレセンの運営長 土山先生)

参加者の声

トレセンに参加して、人の気持ちを考え、「気づき・考え・実行する」大切さがよくわかりました。さらに、友だちをいっぱいつくって視野を広げたり「人間性」を深めたりすることができました。赤十字は人を助けるだけではなく、その人の心も助ける団体だとわかりました。ぼくは、どんなに小さいことでも赤十字に協力したいです。(小学生)



ぼくはトレセンに参加して、1人で生きる大変さと、他人と関わる大切さを学びました。(小学生)

今まで私は人に流されて行動しがちな部分があったけれど、トレセンでは「自発的に行動する」を目標として生活したため、自主・自律の精神が身に付いたと思います。(高校生)



今回トレセンに初めて参加して、大学では得られない多くの経験ができました。学校や学年が混ざることによって指導の仕方も変わり、いろいろな先生の指導方法や他の学校の子どもたちの様子も見ることができました。また、先生方の「見守る姿勢」も学べ、自主的に動ける子を育てられるトレセンはとても魅力的だと感じました。大学を卒業した後もボランティア活動をしつつ、教員になった際は指導者としてまたトレセンに参加したいです。(将来教員を目指す大学生ボランティア)

参加のお問い合わせはこちらから! ▶▶



※P11~12の内容は2025年3月31日時点のものです。

高校生青少年赤十字 メンバー対談

オーストリア・ベトナム・モンゴルでの夏休みの学び

人道の心を持った若者の育成は世界各地の赤十字社でも行われています。取り組みの中には、さまざまな国や地域から参加者を募り、「国際理解・親善」を推進しているものもあります。2024年の夏に海外の赤十字社が主催した若手向けのサマーカーンプに参加した高校生メンバーが、キャンプで成長したこと、これからやってみたいことを教えてくださいました。



海外の赤十字ユースキャンプに参加しようと思ったきっかけを教えてください！

清本さん：他国の文化を知ったり、自分たちの赤十字の活動を伝えたり、他国の赤十字への理解を深められたらいいな、という思いからキャンプに参加しました。

幼少期から英会話を習っていて、将来は英語に関わる仕事がしたいと思っているので、英語でのコミュニケーションを通じて赤十字と関わる人たちと交流し、視野を広げたいと思ったのもきっかけのひとつです。

神成さん：私は、世界の人たちと関わることに興味があったからです。将来は国際的に活動できる看護師を目指しているので、赤十字の海外派遣にも関心がありました。

最初はモンゴルのキャンプに応募したのですが落選。がっかりしていたところに、ベトナムのキャンプの話が舞い込んできて、英語をもっと勉強したいという気持ちが高まった時期でもあったので、応募して参加を決めました。



清本 楓乃音さん

栃木県立小山西高等学校2年
中学生の頃から社会貢献活動に興味を持ち、現在の高校へはJRC部の活動が盛んという理由で進学を決めたという。将来の夢は赤十字職員

自分の弱さを克服して人間としての成長を感じました

キャンプではどのような体験をしてどのような成長を感じましたか？

神成さん：私はベトナムで3日間のキャンプに参加しました。グリーンボランティアという海洋汚染について学ぶもので、海岸掃除をしたり私たちに何ができるのかを議論したりして過ごしましたが、日本の研修とは違ってフランクなものでした。夜には各国の歌や踊りなどの文化を紹介す

Austria



2024年7月8日(月)～22日(月)、オーストリアのランゲンロイスでオーストリア赤十字社主催のサマーカーンプが開催され、17か国から約40名が参加した

Mongolia



モンゴル赤十字社は、2024年7月24日(水)～30日(火)にキャンプを開催。日本、中国(香港を含む)、韓国、モンゴルの計41名がモンゴル・ウランバートルに集まった

Vietnam



ベトナム赤十字社は、2024年8月13日(火)～15日(木)にベトナム・カインホアでユース・ボランティアキャンプを開催。10か国から約460名が参加した



る、カルチャーナイトというイベントが催されて、私たちが盆踊りを披露したところ他国の人も一緒に踊ってくれて盛り上がりました。

清本さん：私は2週間、オーストリアでのキャンプに参加しました。特に印象に残っているのは、やはり夜に開催されたナショナルパブという活動です。当番になった国の参加者が自国の料理をつくって振る舞うというイベントで、毎晩色々な国の料理を食べ、他国の文化を知ることができました。私たちはお好み焼きをつくったのですが、何度もおかわりをする人もいて嬉しかったです。

神成さん：コミュニケーション能力の高い人が多かったですよね。日本人はシャイでなかなか意見を言えませんが、他国の人は思いついたら間違いを恐れずにどんどん言うのには驚きました。アニメなど日本のことをみんな知っていて、私が知らない日本の文化を反対に教えられることもありました。言葉の壁で戸惑うこともありましたが、みんなの優しさに助けられて乗り切ることができ、知見を広げられるだけでなく友情にも恵まれ、とても有意義な3日間でした。

清本さん：私もコミュニケーション能力の差や、外国人のフランクさに圧倒されました。以前から友だちだった？というくらいみんな打ち解けてくれるのに、シャイなのもあり英語で話さなければならぬものもあり、最初は輪の中に入れず心が折れそうになってしまっ…。

でも、海外だからすぐ帰れるわけでもなく、何とか自分なりにモチベーションを維持して、後半は自分からコミュニケーションを取れるまでになりました。この経験で人間としての成長を感じましたし、今後色々なことに挑戦したいという意欲も湧いてきました。

キャンプでの経験を今後どう生かしていきたいですか？

神成さん：キャンプで学んだ環境問題は、多くの人に伝えてこそ解決につながるものと思っているので、校内、県の高校生協議会でも発表させていただきましたが、今後も積極的に発信していきたいと考えています。高校卒業後は青年奉仕団に入り、将来は赤十字の病院で働くことも考えているので、今回のキャンプで幅広い視野や文化理解を深められたことは、大きな財産になりました。

これからも、青少年赤十字で培った5W1Hの考え方や計画を立てる力を強みとして、地域や国際社会に貢献できればと思っています。

清本さん：キャンプでは現地では感じられない空気感や、他国から見た日本を知ることができました。この貴重な経験を国際理解弁論大会や赤十字の報告会を通じて多くの人に伝え、次の国際貢献へのきっかけをつくりたいと思っています。

日本にいたるだけでは得られない経験である今回の交流



人々の優しさや心づかいに助けられた友情にも恵まれました



神成 梨花さん

埼玉県立常盤高等学校2年
高校入学後にJRC部の見学に行った際、活動の素晴らしさに心を打たれ、その日のうちに入部を決意。将来の夢は国際的に活躍できる看護師

や学びは、自分の成長を促し、視野を広げてくれ、赤十字職員として社会貢献や国際貢献ができる人になりたいとの思いが強くなりました。大学進学後も青年奉仕団活動を通じて学びを深め、自分の経験や知識を生かし、より良い社会の架け橋となれる存在を目指したいです。

モンゴルキャンプ参加者の声

気候変動や環境問題に関心があり、他の国の人たちとともに生活し、英語でコミュニケーションを試みることに魅力を感じて参加を決意しました。最初は英語が伝わらず悔しい思いをしましたが、ジェスチャーを使って自分の意志を伝える大切さを学び、積極的に発言するよう心がけました。



霜越 未来望さん
学習院女子高等学校2年

今回のキャンプを通じて、他国の赤十字活動について知ることができたので、それらを今後のボランティア活動に生かしたいと思っています。

指導教諭の声

指導者をしていると、赤十字がみんなと一瞬でつながれる、まるで世界の共通言語のように感じられます。初対面の人に物怖じしないこの対談の様子からも、キャンプの経験がまた1つ清本さんを成長させてくれたと思いました。



布川 裕美先生
栃木県立小山西高等学校
指導教諭

色々な体験をする子どもたちと出会うことで、私の教員生活もより豊かなものになっています。

〈ご案内〉

今年度実施予定の各種研修・事業

5月

青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター 指導者養成講習会

時期 2026年5月29日～5月31日開催(予定)

内容 主に夏に全国各地で実施されるトレセン(P11-12参照)で、中心となって指導できる先生を養成することを目的に開催しています。毎年50名前後の教職員等が東京に集まり、2泊3日の宿泊型のプログラムを通じて、青少年赤十字の考えや教材の活用法、トレセンの運営方法を学びます。また全国の先生同士で、日頃各地で実践するトレセンの事例や課題等を共有する情報交換の時間もあります。先生が児童・生徒の目線から、実際のトレセンのプログラムを体験し、意味を知ることができる講習として好評です。



7月

全国の校長先生たちが話し合う! 全国指導者協議会・研修会

時期 2026年7月上旬開催(予定)

内容 各都道府県には、加盟校の先生で組織された「青少年赤十字指導者協議会」があり、主に代表校の校長先生が会長を務めています。この協議会の全国の会長が一堂に会する場が全国指導者協議会です。例年、文部科学省初等中等教育局視学官をお招きした講演や、各地の活動報告、学校種にわかれて行うグループディスカッション等、1日を通して活発な議論が展開されます。全国の会長が青少年赤十字の最新の活動やさまざまな学校の状況や事例を知ること、各地の青少年赤十字活動のより一層の発展や普及促進につながることが期待されます。

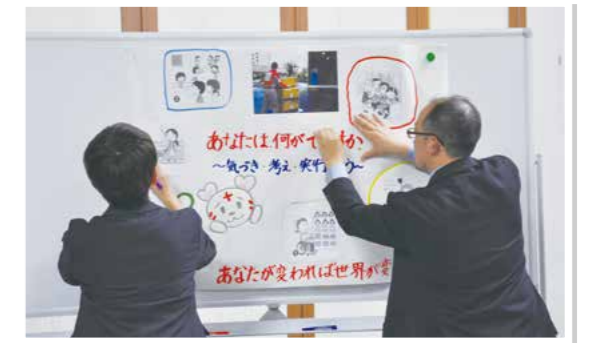


11月

青少年赤十字指導者中央講習会

時期 2026年11月上旬(予定)

内容 2026年は隔年開催の本講習会の実施年です。本講習会は青少年赤十字指導者が赤十字と青少年育成事業について理解を深め、教育現場のニーズに即し、学校が抱える課題を解決するための一助となるような青少年赤十字の育成手法・プログラムを検討し、今後のさらなる普及活動へつなげることを目的に開催しています。2024年度は、活動事例や課題を共有し、教育を通じて改めて子どもたちに伝えたいことや青少年赤十字の活用について協議し、ポスター型教材を作成するグループワークを行いました。「他校の実践事例などを聞くことで新しいアイデアを得ることができ、とても有意義な時間だった」などの感想が寄せられています。参加者は本講習会で得た知識等を持ち帰り、児童・生徒が日々の実践活動から、助け合いや思いやりの心を育めるよう、各地域の教育現場で取り組みを続けることが期待されます。



3月

青少年赤十字スタディー・センター

時期 2027年3月末開催(予定)

内容 本研修会は、青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を目的として毎年開催しています。全国の代表として選ばれた80名前後の高校生メンバーが集まって4泊5日寝食を共にしながらリーダーシップ・コミュニケーション等を学び、自分の地域でできるアクションプランを作成します。「最初はとても不安だったけれど、どんどん意見を出して主体的に動くみんなを見てインスピレーションを受けました。自分から考えて動くことの楽しさを知りました」「アクションプラン作成から感じた自分の成長に驚いています。やればできるじゃん私!と思いました!」といった感想のように、本研修ではたくさん的高校生が自らの成長を実感しています。



ぜひご参加ください!



これらの研修のほかにも、各地域で指導者向けやメンバー向けのさまざまな行事を準備しています。詳細は、各都道府県支部にお問い合わせください。

各都道府県
支部連絡先は
こちらから



学校で活用できる！

青少年赤十字 教材・資料

青少年赤十字では、児童・生徒への指導の際に活用できるさまざまな教材・資料を作成しています。

ぜひ、普段の学校教育活動等にお役立てください。



まずはここから！

せきじゅうじって、なんだろう？

アンリー・デュナンにより始まった赤十字について、読みやすく紹介した入門書



青少年赤十字のひみつ

子どもたちにも理解しやすいよう、青少年赤十字や赤十字について漫画でまとめた冊子



青少年赤十字 指導者手引き

青少年赤十字活動に関わる先生に向けて、その趣旨や活用する方法について理解を深めていただくための手引き



ハートラちゃんといっしょ！

「赤十字」と「青少年赤十字」をわかりやすく解説した動画（東京都支部100周年記念作成動画）

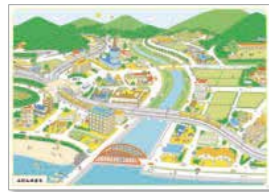


YouTube

防災学習をやってみよう

ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!教材

幼稚園・保育所の子どもたちと、災害時の危険（場所・行動）について学び、自分の身を守る基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうための教材



青少年赤十字防災教育プログラム 『まもるいのち ひろめるぼうさい』

自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場の教員が提案する、授業ですぐ使える防災教材



SDGsを使って思いやりの心を育みたい

未来への種まき SDGsから気づき・考え・実行する

子どもたちが思いやりをもって課題に「気づき・考え・実行」できるよう、ピクトグラムやフードロス等を題材に、授業や探求学習など幅広い場面で活用できる教材



赤十字の歴史を知りたい

赤十字WEBミュージアム

先人から受け継いだ赤十字の歴史的・文化的遺産の一部を、WEB上でご覧いただけます



ホームページでは他にもさまざまな資料を公開しています。▶▶▶▶



大阪・関西万博「国際赤十字・赤新月運動館」実施報告

2025年4月13日～10月13日

体感型パビリオン、多くの感動を残して閉幕

2025年、赤十字は大阪・関西万博に人道の力を伝える「国際赤十字・赤新月運動館」を出展。記録的な猛暑が続く中、閉幕まで連日長蛇の列ができるほどの好評を博し、多くの方々の胸に人道を自分ごととして考えるきっかけと、行動へ踏み出す気づきを残しました。

開催概要

来館者数：31万人超
特設サイト訪問者数：約150万人
メッセージ投稿者数：9万人超



31万人が体感～人道の力を伝えた184日間～

2025年4月13日から184日間にわたり開催された大阪・関西万博。日本赤十字社が企画・制作・運営を担った「国際赤十字・赤新月運動館」には、31万人を超える方々が訪れました。

出展スローガン「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」のもと、紛争や災害による人道危機の現状と、それに立ち向かう人々の姿をドームシアターで紹介。来館者が人道の理念への理解と共感を深め、行動につなげるきっかけとなることを願い、準備期間から会期終了まで全力で取り組み、最後まで大過なく運営することができました。



来館者・スタッフの声

万博を通して、来館者の皆さまやスタッフとして活動した赤十字ボランティアが、それぞれに感じた思いや気づきの声を紹介します。

Voice 来館者

今まで見たパビリオンの中で1番心に刺さる内容でした。The Power of Humanityという言葉が胸に生きていきたいと思います。
<20代>

今回のパビリオンを通し、とても勉強になりました。今も世界のどこかで起こっている悲劇をみんな見てみぬふりしているのが現状です。誰かがじゃなくて自分が何か1つでも行動に移して、世界が少しずつでも変わって欲しいです。
<10代>

子どもの心にも響く内容でした。10歳の子どもが、「今ある日常を大切にしたい、自分にできることを考えたい」と感想を言っていました。
<40代>

今まで、人のために何かできることはないかと考えた時に、考えるだけで止まっていたけど、改めて行動に移していけないといけないと思いました。献血することからやっていきたいなと思います。改めて考える時間が持てよかったです。
<30代>

Voice ボランティア スタッフ



潮 香帆さん
群馬県青年赤十字奉仕団

JRCメンバーとして3年間活動。
高校卒業後も赤十字ボランティアとして活動を継続中!!

地域に根ざした活動が中心の私にとって、さまざまな世代や国の方々と関わる万博での経験は新鮮で、赤十字が国境を越えて人を結ぶ存在であることを実感しました。また、来館者からの温かい言葉に励まされ、私たちの活動が多くの方に支えられ、期待されていることを再認識しました。この経験を生かし、今後も赤十字の活動を通して「誰一人取り残さない」という思いを身近な活動から世界へと広げ、実現していきたいです。

\\ 読者アンケートにご協力ください! //

指導情報をより良くしていくために、ご感想・お気づきの点をお聞かせください。2026年9月30日までにアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に赤十字オリジナルグッズをプレゼントします。



スマートフォン
はこちらから

●URL

<https://forms.office.com/r/jPua2tDC0j>

青少年赤十字指導情報 No.174

Junior Red Cross Information 2026



※この指導情報は株式会社ゆで太郎システムによる「ゆで太郎夢基金」からのご寄付の一部が充てられています。

日本赤十字社 東京都港区芝大門1丁目1番3号

<https://www.jrc.or.jp/>